

【宇城市】 校務D X計画

本市では、令和元年度に統合型校務支援システム及びグループウェア、校務用パソコン、指導用パソコンを導入した。校務の効率化に大きく寄与してきたが、昨今の教育D Xや働き方改革の流れに適合しなくなっている。

そこで、令和5年3月に「G I G Aスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議の提言」に基づく次世代の校務D X化に向け、文部科学省が公表した「G I G Aスクール構想の下での校務D X化チェックリスト」に示されている、教育委員会及び学校が校務D Xを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現するため、本市において、次に掲げる事項を重点的に推進する。

1 ゼロトラスト環境の構築

(1) 校務系及び学習系ネットワークの統合

本市のネットワークは、校務系と学習系のネットワークに分かれており、加えて、校務系と学習系で別の端末を用いている。このため、それぞれの端末に保有しているデータの円滑なやりとりができず、また、校務系と学習系で別の端末が必要なことによる設備コストの増加といった課題がある。さらに、校務系の端末は有線での接続であるため、校務を職員室でしか処理できないといった場所の制約が発生している。

そこで、次期校務システムの更新に合わせ、校務系と学習系を統合するとともに端末を1台に集約する。なお、ネットワークの統合にあたっては、ゼロトラストセキュリティの考え方にに基づき、アクセス制御によるセキュリティ対策を十分講じることとする。

(2) 校務支援システムのクラウド化

本市の校務支援システムは、オンプレミスで構築しており、教務、保健、学籍等を統合した統合型校務支援システムを導入している。オンプレミスであるため、大規模災害により庁舎等が損傷することによるデータ消失のリスクが発生している。また、教職員の負担軽減やコミュニケーション迅速化・活性化を進めるため、保護者連絡ツールやクラウドツール等と連携させていく必要がある。

そこで、次期更新では、大規模災害時にも業務の継続性を確保し、他のツールとの連携を目指し、クラウド化した校務支援システムの導入を検討する。

なお、名簿情報の登録は、約80%の学校でデジタルデータを処理しているため、100%となるよう周知徹底を行い、手入力作業の一掃を推進していく。

(3) 教育ダッシュボードの創出

本市は、現在教育に関するダッシュボードはなく、各システムにデータが保有されているため、データ分析を行うことは非常に困難である。子供一人一人の状態やクラスの状態は、担任以外の教職員には把握することは難しい。

そこで、教育に関するダッシュボードを創出し、個人や学校単位で関係する様々なデータを一画面に統合して可視化することで、問題・課題の早期発見や校内での情報共有、子供一人一人に応じたきめ細かな指導が可能となる。また、国等の調査回答作成の負担軽減にもつながり、教職員の働き方改革にもつながる。

2 クラウドツールの活用

本市は、会議の資料共有や教職員間の情報共有、校内調査・アンケート等の連絡では、汎用クラウドツールやグループウェアの活用が浸透しつつあり、教職員の働き方

改革に寄与している。しかし、保護者との連絡は、紙や電話が中心であり、一部メールを使用するに留まっている。

保護者連絡ツールや汎用クラウドツールを活用することで、保護者の利便性の向上や保護者・教職員ともに負担軽減につながるため、クラウドツールの活用を進めていく。

3 F A X及び押印の見直し

本市は、F A Xや押印の原則廃止は、全国と比較して進んでいない状況である。F A X及び押印の原則廃止が進まないことで、教育関係システムのクラウド化や手続きのオンライン化を阻害する要因となっている。特に押印の原則廃止については、各種参加・同意・承諾に関する書類や各種申請書、各種調査等押印が必要な書類が数多く存在する。F A X及び押印の見直しを進めるにあたっては、実態を把握したうえで、見直しの検討を行い、関係者へ周知徹底を行っていく。